



# 新潟の水辺だより

Vol.59

●編集発行 特定非営利活動法人新潟水辺の会●発行日 2004年2月7日 Vol.59

## NPO全国水環境交流会理事長、森清和氏の想いをつなぐ



森 清和さん 1993年8月撮影

年末、全国水環境交流会のNPO法人化の総会の議長席に、私にとって兄のような存在の森清和さんはドクターストップのかかっているという体を引きずって(やつれてきた姿に私にはそう見えた)座っていた。国交省の青山顧問の講演を聞き終え最初に質問したのは森さんだった。今思えば、『今ここで言うておかなければ誰が言う!?!』という鬼気に迫る言葉だったと思う。これまでの長い活動を凝縮させた言葉を搾り出し「青山さんと私と川への想いは同じだと思います。なのに、どうして私と青山さんの(官と民の)ズレが出てしまったのでしょうか?」という質問を發した。『同じ川への想いがあるんだから、もっと理解して欲しい』『全ての人々、全ての生き物に想いをはせた川の政策をして欲しい』と言っているように見えた。またその言葉は『今日集まった仲間たちも俺の想いを継いで欲しい』とわれわれに語りかけていたようにも思えた。

今、森さんの通夜に参列した帰りの新幹線の中でこの文を書いている。彼の搾り出すような想いを思ったら「辛かったんだろうなあ、悔しかったんだろうなあ」と熱いものがこみ上げ黒い窓を見つめるしかなかった。昨夏の全国川の日ワークショップで閉会のあいさつに立った森さんは、最初の数分間、言葉が出てこなかった。ここまで盛り上げてこれた大会にこみ上げてくるものがあつたのだろう。参加者の大部分はその熱いものを感じ取っていた。それ以来のことと思える。

今まで森さんは、不肖な私を弟のように『相楽さん、あの人を紹介するよ』『この人、知ってる?紹介するよ』と全国の多くの仲間を紹介してくれた。新潟水辺の会を市民の目の高さで率いてくれたのが大熊さんとする

と、『川の専門家でなくとも楽しみながらやれるよ』とあって私を“川仕事師”にしたのは森さんかもしれない。

森さんとの出会いは、よこはまのかわを考える会の創始者ということで、わが会の前身新潟の水辺を考える会の第2回(‘89年)の定例水辺シンポの講演をお願いしたときと思う。「ホテル文化と水辺のエコアップ」というテーマだった。よこはまのかわを考える会の活動は、まち中の三面コンクリート張りの巨大なU字溝の川、捨てられている自転車も見えないほど真っ黒なドブ川を会の仲間と掃除し、そのドブ川でレンジャーならぬ市民がロープを伝って川渡り遊びをする、カラフルできれいなカヌーをドブ川に並べて川下りをするものだった。目から鱗の落ちる感じだった。わが会の原点は、広松伝さんたちの、市民がドブ川化した堀再生というのっぴきならないことを引き受けていく活動ドキュメント映画「柳川堀割物語」の上映&シンポで得た感動が原点だった。そんなところに、アッケラカンとした森さんたちの楽しいドブ川遊びがあつた。なんて凄い連中かという思いと「こんな川の活動なら俺にもやれそうだ」という思いが湧いてきた。その後、森さんのお誘いで私は水郷水都全国会議や全国川の日ワークショップ、いい川・いい川づくり研究会など、川の仕事仲間にしてもらい多くを学んだし、そこで森さんの川への強い想いも感じ取ってきたつもりだ。

私たちが、個々の様々なローカルの川づくりの試みを私たちの市民公共事業としてどう実践していくかが森さんの想いをつなぐ課題だ。新潟水辺の会は、「美しい水辺の実現」を目指して、楽しい水辺との関わりを流域連携・自治、新しい水辺のパートナーグループの支援、都市河川の自然再生とまちづくり、産官学民の協働、こども川クラブなど様々な川仕事を「かわ塾」としてまとめていく時期に来ている。森さんからのメッセージ『後はみんなで考えましょう』を、私は、全国の取りくみとわれわれの地域での取りくみとの融合と地域での自律的な活動の実現としてつないでいくつもりだ。

森さん、全国の「川の行方」を安らかに見守っていて下さい。

合掌

世話人(事務局長) 相楽 治

### 近江八幡「近江商人の町並み・八幡堀・水郷めぐり」と「北国街道・長浜まち歩き」の旅

今回も、堀割再生物語プロジェクト実行委員会と、新潟水辺の会の共催で行なった。

10月25日(土) 参加者一行23名は、新潟駅南口を07:45に15分遅れで出発した、当日、天候も良く途中、妙高山、剣岳、立山連峰の雪化粧と日本海の青さを見つつ、一路滋賀県近江八幡市に向かう。

無事14:30分、近江八幡市公民館に到着。

川端五兵衛市長及び市役所職員が我々を出向かえてくれた。

当会森本部会長の「挨拶」で始まり、川端市長の「歓迎の挨拶と講演会」が行なわれた。

#### 重要伝統的建物群保存地区

地元ボランティアガイド協会の案内で、朝鮮人街道を通り、郷土資料館、歴史民族資料館、旧西川邸住宅と三階建土蔵を見て、重要伝統的建物群保存地区新町通りを歩く、江戸末期から明治にかけての建物で、屋根には「うだつ」堀越しには「見越しの松」、途中近江八幡名物「麩」「赤こんにゃく」の店に寄りつつ、八幡堀新町浜に到着。

#### 八幡堀

豊臣秀次が八幡城の防御として掘った、琵琶湖と通じ往來する舟を城下に寄港させ、繁栄の基盤を築いた。現在も堀に沿って白壁の土蔵が並ぶ。



八幡堀を見る

堀の岸辺に遊歩道に桜や花菖蒲が植えられている。現在ボランティアの活躍で堀は景観保全されている。水は「北之庄沢」でヨシにより浄化された水をポンプアップして堀に流している。17:30、八幡宮駐車場を出発、今日の宿泊先休暇村「近江八幡」にチェックインして、交流会、懇親会の会場「あきんどの里」に向かった。

#### 交流会、懇親会 あきんどの里「近江商人塾」

地元団体参加者、商工会議所会頭・青年会議所理事長及び副理事・ハートランド推進財団理事長及び理事・八幡堀を守る会会長及び事務

局・北之庄沢を守る会会長・秀次倶楽部代表・喜兵衛塾代表・観光ボランティアガイド協会顧問及び会長 市役所 川端市長・建設部長・郷土資料館長・商工観光課長・企画課長・秘書広報課長及び係長 と20名で当方が24名です。

当会川上会長の挨拶の代読で始まり、各自自己紹介をし、森本部会長のギターで盛り上がり、2時間があつという間に過ぎた、お礼の挨拶で閉会した。



「手こぎ舟」での水郷めぐり

#### 休暇村「近江八幡」

20:50 宿泊所に入る、天然温泉露天風呂につかり星空を見て、1日の疲れをとり、酒を飲みながら夜遅くまで「堀」について語り合った。

10月26日(日) 08:30 出発 豊年橋和船の乗り場に向かう。

#### 水郷めぐり

08:50 「手こぎ舟」で八幡堀をへて、北之庄沢に向かう、船頭は元百姓で平均年齢は70歳を超えている。水路周りに「よし」「まこも」が多く、水深は1~2mで、舟の前にはカイツブリ・コガモが泳ぎ、まこもの根元には鯉をとるヤナがある。

1時間の水郷めぐりも終わり、10時出発 湖岸道路を通り長浜市に向かう。

#### 長浜市 NPO法人まちづくり役場

10:50 長浜駅前に到着、NPO法人まちづくり役場、山崎弘子事務局長に会い、開知学校で「長浜市のまちづくり」について、1時間30分の研修会になった。各自自由に昼食、まち歩きを2時間楽しんだ。

14:30 出発 北陸自動車道長浜ICより新潟に向かった。

20:15 新潟駅南口に無事に到着しました。お疲れさまでした、また感動と収穫の多い旅でした。

堀割再生物語プロジェクト実行委員会

副会長 嶋田 正章

(写真 森本 利)



## ワイワイ！ガヤガヤ！ 「水と緑」寄ったかり

平成15年8月31日（日）、鳥屋野湖畔のNSGカレッジリーグ学生総合プラザ「STEP」にて第1回 やろってば！！ワイワイガヤガヤ「水と緑」寄ったかり 副題～あなたのいい水辺・いい緑、楽しい活動発表大会～が、にいがた水と緑ワークショップ実行委員会と新潟地域振興事務所の主催で行われ、水辺の会が一丸となって裏方を担当しました。



女池小ビオネッシー発未成年の主張

新潟市周辺地域には、信濃川、阿賀野川、鳥屋野潟、佐潟などの大小の河川や湖沼、日本海の海岸といった多様な水辺があり、水郷水都のまちの骨格となっています。一方、海岸林や屋敷林、大規模な水田の緑など豊かな緑環境が身近なところでありそれが新潟市の個性となっています。この自然環境に対する活動を行っている20の市民団体が集まり、自分たちの活動を1チーム3分間と限られた中で工夫を凝らし発表しました。

その後4分間の審査員との質疑により、「苦労話」「関わり」「状況」「着想、発想」「発表・パフォーマンス」の評価により各団体に賞が渡されました。特別出演では、七尾市の株式会社御祓川の発表もありました。その中でも女池小学校の「女池小ビオネッシー発 未成年の主張」の12名のパフォーマンスに会場は大変盛り上がり、楽しい4時間を過ごさせていただきました。

新潟では初めての発表会であり、活動内容を3分間と短い時間内で表現できるか心配でしたが司会者、参加者、審査員、観客が一体となり大成功でした。東京で行われている「全国川の日ワークショップ」に比べ参加団体は少ないものの、内容ではひけをとらないものが多くあったとのことでした。今後は情報交換から活動交流の場に進み、真の「いい水辺、いい緑とは何か」を求め、今年第2回が行われることを楽しみにしています。

世話人 加藤 功

## 中ノ口川夢の水辺づくり

平成14年度では、中之口村高野宮～潟浦新地区の中ノ口川（1.6km）で、堤防と隣接する新潟交通電鉄の跡地を使い、3回のワークショップ（以下WS）などで地域住民との協働により、河川空間を利用した整備の構想を取りまとめ、更に整備後には持続的に利活用運営され、維持管理を担う地域の仕組み、組織の立ち上げを検討する業務であった。

平成15年4月20日、川を楽しむ「小吉水辺の会」が立ち上がり、地域の熱意を受け県巻地域振興事務所から再び、15年度も「中ノ口川夢の水辺づくり」の業務を受託し、5回のWSなどで地域の人々の具体的な意見を取りまとめ、基本計画（図）を作成した。一方、県土木事務所は平成15年度～17年度で「ふれあいの場づくり事業」を同じ場所（1.6km）に決定し、測量、基本計画に着手し、WSと並行して進めることとなり「中ノ口川夢の水辺づくり」はより現実的となった。

（平成15年度、5回のWS全体の流れ）

第1回（6月28日）：今年の方針づくりで、計画を検討、立案した。第2回（7月27日）：中ノ口川再発見川くんだりイベントを行い、80名近い人が参加しカヌーで川くだりを体験した。第3回（8月17日）：区間全線を歩き、盛土、階段、斜路、各種施設デザインについて検討した。第4回（9月27日）：これまでの提案を参考にして具体的な堤防の模型を作成し、イメージアップを図った。第5回（10月18日）：区間全線の図面に具体的なイラストを入れたものを使い検討し、意見を集約して基本計画図を作成した。



Eボート体験（7月29日）

（今後の課題）

「ふれあいの場づくり事業」整備後の維持管理について「小吉水辺の会」が主体性を持てるか、大きな課題である。

世話人 松野 直一

### 阿賀野川流域連携フォーラム 参加報告

平成15年11月28日（金）会津若松市で開催された表記のフォーラムが福島県の主催で開催された。

テーマは、～森・川・海を一体としてとらえた「循環の理念」に基づく地域づくりを目指して～少し長いタイトルですが、阿賀野川流域のか環境を保全しながら連携した街づくりを推進していこうというのが柱である。佐藤洋一氏（日本大学選任講師）の基調講演に始まり渡辺徹（源流）・馬場和廣（上流）坂内正嗣（支流）3氏の福島県の方と水辺の会副代表（河口部）としてパネラーで参加した。

★源流では、ブナ林の再生問題として戦後の開拓者による山林開発を問題提起しながら話し合いによる民地56haの買い上げで復元を進めていると発表しました。

★上流では、メダカの増殖等を目的に国土交通省と協働でメダカ塾を立ち上げ、川から学ぶシステムを活用しながらリーダー育成に取り組んでいる。

★支流、湯川の上流にサンショウウオの生息が確認された。一方、東山温周辺に蛍や錦鯉を放し集客のPRも含めた発表が印象的でした。

★阿賀野川の河口部は新潟空港がある。そして上流からの豊かな恵みの水をうけて季節ごとに様々な魚が遡上し漁業が成立している。

一方、河口から少し上流に通船川がある。かつて阿賀野川であったが、藩政時代に行われた治水事業の失敗が通船川として人の都合で様々な変遷を経て今に伝わり汚染された都市河川になった。その川にパートナーシップによる再生事業が行われているが水辺の会は、その中で中心的役割を果たしている。

この川の再生によって阿賀野川・小阿賀野川・信濃川など四つの川を結び連携した舟運による街づくり（水都回廊）が考えられる。また、近年まで市内の小学校の多数が選ぶ修学旅行の定番は会津若松市であった。その意味で会津の思い出は市民が共有していると思う。そこで、新潟市と会津を結ぶ水上バスを運行し今、流行のスロー体験をするのもよいと思う。

世話人 星島 卓美

### 阿賀野川流域子ども交流会から ネットワークづくりにむけて

平成15年8月1～3日、昨年に引き続き、新潟県・福島県の共催で『阿賀野川流域子ども交流会』が行われました。当会は新潟県からの委託で企画・運営にあたりました。



本気出して一緒に遊ぶことから事は始まる

今年は2泊3日で福島県の田島町、三島町、新潟県は上川村、新潟市を巡る旅でした。

新潟県側のスタッフは、新津市育て！ガキ大将を考える会の高校生スタッフ、大熊代表の研究室の学生の皆さんが中心となり子ども達をまとめました。

この子ども交流会は福島県と新潟県がそれぞれ3年間の阿賀野川流域の交流・連携事業の一環として行われてきました。新潟県より1年早く事業を立ち上げた福島県は今年で事業年度が終わる事情などから、行政の事業としてこの交流会は今年で終わりとなる見込みです。

とはいえ、新潟県ではもう1年事業年度が残っています。

今年度の残りと来年度は「阿賀野川流域で水に関わる市民グループ、個人、企業などがネットワークづくりを支援する」ための事業となります。

この1年と少しの間で、お互いの顔が見えるようになり、関わる人たちそれぞれが少しずつ「関わって得た」と思うような仕組みが作れたらいいと思っています。

その第一歩として、2月14日に「阿賀野川流域団体ネットワーク交流会」が新潟市内で行われます。当会は新潟県より委託を受け運営にあたります。

ご参加はもちろん、お心当たりのあるグループ等へのお声かけをお願いいたします。

事務局 杉山 泰彦

2月14日の「阿賀野川流域団体ネットワーク交流会」については杉山まで



## イベント情報

### その1

#### 「千曲川信濃川考流会」

長野県水辺環境保全研究会と当会が一つのテーマで研究発表し、水上バスでの旨い酒と肴で親交を深めます。

日時5月15（土）～16日（日）

集合 15日13:00 新潟駅南口

参加費 研究会：1,000円。懇親会6,500円

主催：長野県水辺環境保全研究会・NPO法人新潟水辺の会

内容

15日

現地見学（信濃川やすらぎ堤ほか）  
新潟市歴史博物館を見学し、研究会テーマ「越後平野の開発と残された生物達」

懇親会：信濃川ウォーターシャトル

16日：ラムサール条約登録湿地「佐潟」  
見学

問い合わせ 事務局森本まで  
（電話090-1613-1879）

### その2

#### 高速道路を取り壊し、川の復元事業を行っている「清溪川」への旅

ソウル市内の清溪川（チョンゲチョン）復元事業の見学に行きます。

期日 9月17日～19日

主催：NPO法人新潟水辺の会

共催：堀割再生物語プロジェクト実行委員会

問い合わせ 事務局森本まで  
（電話090-1613-1879）

### その他のイベント

2月：7堀割再生考座・7新潟県学校ジオトープシンポジウム・7万代橋とまちづくりを考えるシンポジウム・13まちの駅フォーラムin長岡市・14阿賀野川連携団体ネットワーク交流会in新津市・20万代橋あかり景観イ実験・21万代橋景観リレーフォーラム・29ストリップ・ザ地球温暖化in朱鷺メッセ

3月：7魚沼交流ネットワーク設立シンポ・13新潟市下町フォーラム・14生物多様性シンポジウム・14万代橋リレーフォーラム・28新潟県自然環境保全連絡協議会シンポ

4月：17万代箸リレーフォーラム・中ノ口川桃の花の宴・通船川花筏

5月：菅名岳ハイキング・中ノ口川水辺名所ワークショップ・22-23日本河川開発調査会第4回河川見学会・29-30魚沼水辺ツアー大池川考座&フォーラム

6月：中ノ口川水辺名所ワークショップ

7月：10-11第6回全国川の日ワークショップ・19中ノ口川カヌー&舟下り：小吉水辺の会ほか・夢海岸フェスティバル

8月：7-8全国水環境フェア新潟大会・万代橋誕生祭、信濃川フェスタEボート大会・水と緑の寄ったかりWS・水辺の会定常総会

9月：つうくり市民会議・佐潟ハス採り&農のシンポ

10月：中ノ口橋と鉄道と川のウォーク&シンポジウム

11月：27-28世界都市開発会議新潟フォーラム・27-28水郷水都全国会議 浜松大会

12月：水辺シンポ&望年会

この他イベント情報がありましたら事務局までお寄せいただくか、水辺の会のメーリングリストにご投稿ください。

### A River Runs Through Us

ユタ州のローガン地方の生物学の教師であるジャック・グリーン氏が考案した流域教育プロジェクトは、生徒と教師と一緒に長期間の水質の傾向を調べ、相互関連学習の機会のために川を利用し、ベアリバーについて彼らの知識や考え、関心を共有し合う。

最終的な目的は「生徒自身が知識ある市民になり、そして将来はベアリバー流域における活動的な世話人になるように進めていくこと」で、学際的、全体論的な学習へのアプローチをとっている。生徒と教師が協力し、理解し合うことに加えて、問題解決力、科学的な調査・分析の技術を促進させることで、彼らが力を身につけるように努めている。

環境保護省からの補助金、ユタ州立大学エクステンション等からの基金によって急速に成長してきた。多くの機関（非営利団体）、一般市民、ベアリバーRC&Dのような市民団体もまた、このプロジェクトの相互連携体系に加わり、その質を高めている。

生徒たちは、ベアリバーの水辺に生息する野草や生物の調査だけでなく、物理的要素・科学的要素・生態的要素の追跡調査をする役割を担う。教師もまた、そのカリキュラムの中に芸術や歴史、社会科の授業を取り入れるために川を利用している。

ベアリバー流域に関わる合計で3つの州（ワイオミ・アイダホ・ユタ）の8つの学区から、18人の教師が、このプロジェクトに参加し、現在約400人の生徒を巻き込んでいる。年2回、ベアリバーの本流、支流の各所から定期的にサンプルをとり、その水質データは、収集・分析してから、中央データベースへ送られる。生徒は全体の流域にわ

たるデータを考察し、分析する機会を得、それぞれの学区では、1年を通じて顧問として協力する地元の専門家と共に活動する。このことは、各クラスの経験や知識度を増し、また、生徒が流域回復プロジェクトへの参加を可能としている。

ベアリバー流域教育プロジェクトの目的：  
1～8省略

健全な流域は健全な人間関係を生み出し、社会は、最終的には健全な生態系に依存している。このプロジェクトを通じて、自然界と人間の関係も改善されることを望み、ベアリバーを観察し理解し、行動や学習することにより、すべての住民に恩恵を与える流域を誇り、ケアし理解することが浸透することを望む。

この教育モデルは、他地域の流域管理を行なっている学生や教師、地域リーダーや団体、そして住民を元気づけ、近い将来、この山間地帯にある流域でこのモデルが実行されることを望む。もしすべての住民が流域の健全性を保ち、そして管理する上で積極的な役割を果たせば、21世紀は大いなる未来があることだろう！

出典は以下のホームページの翻訳であること。

<http://www.cnr.usu.edu/bearrivered/>

翻訳：岡田真純・駒田あかり・大熊宏子

（長文につき今回は要約したものを掲載しました。全文は当会のホームページにて紹介予定です。）

## 会 員 紹 介



**藤井 大三郎** 財団法人亀田郷地域センター 勤務地亀田町

私は、菅名岳のふもとの吉清水へ3日に一度は水汲みに行っています。  
亀田郷の農業水路の水質浄化と水辺空間の再生を進め、併せて環境保全形農業を推進し、子供達の食農・情操・感性教育の『場』を作り出せたらすばらしいと思っています。



**堀江 宏伸** 新潟県六日町在住

映画好きの私がおすすめの映画に” a river runs through it” という作品があります。  
タイトルの意味は「川はいつもそこを流れている」です。私がいろんなことに出会って成長していく間、川はあいかわらずそこを流れているというわけです。そんな川の懐の深さが魅力的ですね。



**水野 孝郎** 弘前大学農学生命科学部地域環境科学科 新潟市

今年の3月に大学を卒業する予定です。水辺での思い出といえば、子どもの頃田舎の公園やら水田の周りの用水路でザリガニ、フナ、トンボなどを捕ることが今でも印象的です。将来は是非ともこれからの子ども達に自分が体験した環境を少しでも残していけるよう活動したいと考えています。右も左も良く分からない小モノですが、どうぞよろしくお願いいたします。

### お知らせ

#### 日本河川開発調査会第4回河川見学会 テーマ：新潟砂丘の放水路群

現地案内と説明：新潟大学工学部教授 大熊 孝

期日 5月22日(土)、23日(日) 新潟駅：午前9時20分集合

見学予定箇所：胎内川新川・落堀川と紫雲寺潟干拓地（井沢弥惣兵衛為永による紀州流の代表的な湖沼干拓）・加治川新川（加治川放水路時代の閘門：遺跡と砂丘列）・加治川破堤地点・福島潟と福島潟放水路（施工中）・新発田川放水路・新井郷川放水路・阿賀野川新川（かつての松ヶ崎放水路：開削直後の洪水で洪水時越流堤が破壊されて、一川となる）・阿賀野川の水制と粗朶護岸工・阿賀野川・通船川（阿賀野川と信濃川を結ぶ航路：かつての阿賀野川本川）・新川と西川水路橋、新川河口排水機場・樋曾山隧道、新樋曾山隧道、新々樋曾山隧道（施工中）・御新田川放水路・大河津分水路と分水路記念館・東西合併悪水路・郷本川と郷本隧道・落堀川・相場川（郷土史は河川争奪の結果、日本海へと流れたと説明している）・中ノ口川・横田切れ・新柿川（長岡市内を貫流する柿川の放水路）

問い合わせ：新潟大学工学部 大熊研究室（電話 025-262-7029）

# でしゃばり編集後記

新潟、福島、山口、三重、岐阜の五県の河川の愛護団体よる交流会が昨年11月に郡山で開催された。

今回は一昨年の新潟開催に続き、二回目となった。約40団体約100名の参加者は街づくり、環境などの分科会に別れて活発に情報交換を行った。

今年の幹事役は山口県と決まり、錦川などの見学が予定されている。



夢の郷発表会

三重、愛知、岐阜の三県に流れる木曾三川流域（木曾川、長良川、揖斐川）では「夢の郷プロジェクト」が今年度展開され、活動発表会が長島町で2月1日に行われた。木曾三川水郷めぐりガイドマップや子供たちのアイデアによる治水対策、魅力ある場所発見、歴史、

文化、自然を題材にした劇、夢の郷弁当の発表などを行った。盛りだくさんのメニューで楽しく行われた発表会の参加者は約120名となり、宝暦治水にまつわる題材をNHKの大河ドラマ誘致につなげようと署名活動も行われた。木曾三川の魅力ある場所のホームページでは投票を呼びかけている。

(<http://www.yumenosato.jp/miryoku/>)

水の流れは勢いを増し、全国を巡っている。



1,050円で売り出された夢の郷弁当  
(地産地消と流域交流・連携の結晶)

編集鳥 高橋 正良

[mtakahashi@southernwind.co.jp](mailto:mtakahashi@southernwind.co.jp)

## 事務局より

会員向けのメーリングリストを新しいアドレスで運用始めました。メールはできるけど届いていないよという方は事務局までメールアドレスをメールにてお知らせください。

・次号は12月に行われた水辺シンポジウムのまとめを大きく掲載します。お楽しみに。

## 訃報

当会世話人の皆川美智子さんが1月28日病氣療養中に亡くなられました。ご主人の袿娑雄さんとKMM研究所をつくり、新潟市の下町と堀と川の再生に精力的に取り組まれていました。森さんとともに水辺の会を見守ってくれるものと信じます。心より御冥福をお祈りいたします。

## 入会申込書

年 月

フリガナ氏名	男・女
	歳
特技や水辺への想い	メールアドレス
住所	〒 ( ) -
職業	
勤務先	〒 ( ) -

注) 紙面の都合上、縮小しています。250%程度拡大コピーをしてご使用下さい。

## 入会案内

この会は、遊び心半分・真面目心半分で活動しています。ウォッチングには、家族ぐるみで子供達も一緒に参加したりしています。

自分の足で水辺を歩くなりして、自分でも感じたことから、自分の水辺を発見していく、あるいは考えていくことを大切にしています。

今までとは違った視点から、あらためて自分の身の回りに目を向けて見ると、同じものを見ているのに今までとは違うものに見えてきます。新しい発見があります。自分の世界もまた少し広がってきます。

この会も色々な分野の人達が集まって、それぞれの世界がもっと広がっていくような出会いの場を提供できる会にしたいと考えています。あなたの参加お待ちしております。

■設立年：1987年10月1日 ■目的：水辺に関わる自然、歴史、文化、生活、風俗、スポーツ、レクリエーション並びに科学技術を探り、これからの水辺の望ましい姿を考え、地域の生活向上に寄与することを目的とする。 ■代表者：代表 大熊孝（新潟大学工学部教授） ■会員数：個人203名・法人12団体（2004年2月現在） ■活動：水辺シンポジウムの開催/水辺ウォッチング/会報「新潟の水辺だより」の発行/「水辺環境整備に関する学習会/長野県富山県の水辺グループとの交流会/通船川、佐潟の調査・研究etc.

■年会費：個人会員一口1,000円を2口以上、賛助会員（法人など）一口5,000円を2口以上

●発行： 特定非営利活動法人 新潟水辺の会

●事務局： 〒950-0024 新潟市河渡2-2-8

Phone 025-270-9207

Fax 025-270-9207

e-mail: [info@niigata-mizubenokai.or.jp](mailto:info@niigata-mizubenokai.or.jp)

ホームページ

<http://www.niigata-mizubenokai.or.jp/>